

リモート 吹張自主防災訓練

吹張LINE



Capt.Chu

を活用して連絡を確認！！

清秋の候、町内の皆様には日頃より自主防災にご理解とご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

さて、吹張自主防災訓練は毎年10月に開催してまいりましたが、今年も下記に執り行います。まだまだコロナ禍の中ではありますが、いざという時に身の安全を確保する行動ができるためには、日頃より繰り返し続けて訓練して行くことが大切です。今後も10月を吹張自主防災の月とし、この機会に防災について見つめ直し意識向上に役立てて頂ければと思っております。

つきましては、焚き火台にて、火だねから火をおこす講習、直火でお湯を沸かし、防災食等を作り皆で頂きたいと思います。また、役に立つロープワーク、救命救助の講習会には、3密をさけマスク着用にて、ご参加ご協力くださいますよう御案内申し上げます。

と き：10月16日（日）

午前10時から正午まで

ところ：吹張全域 第1、第2、第3



① 「午前10時地震による土砂災害が発生」

- ・町内全域断水となった。

② 「第3一時避難場所（奥山印刷所駐車場）へ本部を置く」

- ・防災会会員は配布された役割班のネームプレートをつける（マスク着用）

③ 「緊急連絡網の伝達確認」 LINE 「吹張町内会」 に告知

●緊急連絡網の伝達確認訓練 活動：隊長、副隊長、情報班

- ・隊長（奥山忠平）は第3一時避難場所に垂れ幕を掲げ本部を置き副隊長（奥山純一）に指示
- ・副隊長（奥山純一）は情報班班長（渡部均）と給食給水班班長（下山勉）へ指示
- ・情報班（渡部均）は情報班（熊谷隆）避難誘導班（佐々木利雄）に指示（熊谷隆）は情報班（皆川定美）救出救護班（杉山政介）に指示（皆川定美）は消火班（岩崎一哉）に指示

救出救護班と避難誘導班に住民の安否確認を旗とチェックシートにより報告させ副隊長（奥山純一）に報告する。

- ・副隊長（奥山純一）は状況を隊長（奥山忠平）に報告する。

④ 「安否確認」

「住民は各家々に待機、玄関先に旗を掲げる」

各世帯では身の安全、家族の安全を確認、火の始末、家屋まわりの状況を確認。事前に配布した安全であるという意味の町内指定旗を掲げてくささい。災害時要援護者の避難支援者による確認訓練も行う。

■ 黄色い旗を玄関先に掲げる。（■ ピンクの旗は援助が必要）

● 安否確認訓練 活動：救出救護班、避難誘導班

・情報班 救出救護班と避難誘導班よりチェックシートにより安否確認報告を受ける
ピンクの旗を掲げていたお宅の援助要請に対応する。

・隊長、副隊長（奥山忠平、奥山純一）

各安否確認報告を情報班より受ける <隊長あいさつ3密を避け焚き火台を設置させる>

・救出救護班（杉山政介、海野哲也、内藤祐希、佐々木哲也、藤崎知哉、宮越親彦）と

・避難誘導班（佐々木利雄、内藤勇、松本享）

玄関先に旗が無いお宅やピンクの旗を掲げているお宅は訪問し状況を確認対応する。

チェックシートにより安否確認をし本部に集合。情報班へ報告する。

⑤ 災害時の技術・知識を身につけよう

「火おこし」

火おこしにトライしてみましょう

● 火おこし訓練 活動：第一部消防団、消火班、情報班

薪から火をおこす実践訓練。給食給水班のろ過した水でお湯を沸かす。

・消火班（岩崎一哉、次田吉明、佐藤誠、草薨寿貴、石山淳一）

第3一時避難場所（本部）に集合、焚き火台等炊き出しの前準備。火おこし訓練は薪を割ることからフェザースティックの作り方、チャークロスに火打ち石による着火、ファイヤーライターによる着火等、火のおこし方を勉強実践。

● 水くみ、炊き出し訓練 活動：給食給水班、情報班 水を確保ろ過する

・給食給水班（下山勉、寺尾博旨、藤崎知哉）大関の水を汲み（バケツ、ロープ用意）ろ過

● 講習会

「役に立つロープワーク」

日頃から役に立つロープワークを身につけよう

日本キャンプ協会所属 次田 吉明氏「役に立つロープワーク」講習。

「救命救助講習」 いざという時はどうすれば？

「ロープワークによるタンカ作りなどによる救命救助」講習。

⑥ 「防災食試食」

● 防災食にお湯を入れ各自試食し、意見交換。炊き出し終了

・焚き火台等撤収

自主防災訓練終了 解散

■ フッパリボウサイはPDFファイルにてホームページにもアップロードしています
<http://www.yuzawa.site/fuppari>



吹張町内での災害への備えを日頃より行うため、情報誌「Fuppari Bousai」（フッパリボウサイ）は「防災訓練」事業の開催の告知や報告等、防災の意識高揚を目的として発行いたします。

編集企画：奥山 忠平 携帯 09058303132

「いつも」のつきあいが「もしも」に生きる ～災害時要援護者避難支援プラン～ 自主防災訓練実施

大規模な災害が起こったとき、避難が遅れ大きな被害を受けやすいのは、高齢者や障がい者などの何らかの手助けが必要な人たちです。

災害時において自分の身を守ること（自助）はもちろんですが、行政による安否確認（公助）だけでは限界があり、地域での助け合い（共助）の取り組みが大変重要となります。

「災害時要援護者避難支援プラン」は、自力で避難することが困難な方（災害時要援護者）を、身近な地域でええ支え合うための仕組みです。

この事業は湯沢市が湯沢市社会福祉協議会へ台帳整備のみ委託し実施しています。

～災害時要援護者とは？～

大地震などの災害発生時に、自分や家族の力だけでは安全な場所に避難することが難しく、まわりの人の手助けが必要な方の事を言います。

- ① **高齢の方**（ひとり暮らし、高齢者のみの世帯、寝たきりの方、認知症の方など）
- ② **障がいのある方**
- ③ **状況によって手助けが必要な方**（妊産婦、乳幼児・児童、日本語の理解が十分でない外国人、けが人など）

9月現在、吹張町内では5名の方が登録申請されております

～なぜ地域での支援が必要なのか～

大きな災害が発生した直後は行政による支援が間に合いません。いざというときに頼りになるのは、町内の方々や、隣近所をはじめとした住民同士の助け合いで、日ごろから地域の関係づくりがたいせつです。この度の10月16日の自主防災訓練においても災害時要援護者を見守る訓練を行います。

平常時からの取り組み

- 顔の見える関係づくり
 - ・日ごろからの声かけ、見守り活動
- 情報の整理・収集
 - ・支援が必要な方の情報を集める
- 助け合いの体制づくり
 - ・安否確認と連絡網の活用
- 防災訓練の実
 - ・避難場所やルートの確認



災害時の助け合い

- 隣近所で声かけ
 - ・安否の確認
 - ・災害情報の伝達
- 必要に応じて支援
 - ・避難場所へ誘導
 - ・救出救助に協力

吹張自主防災会

※誌面文：湯沢市社協資料より

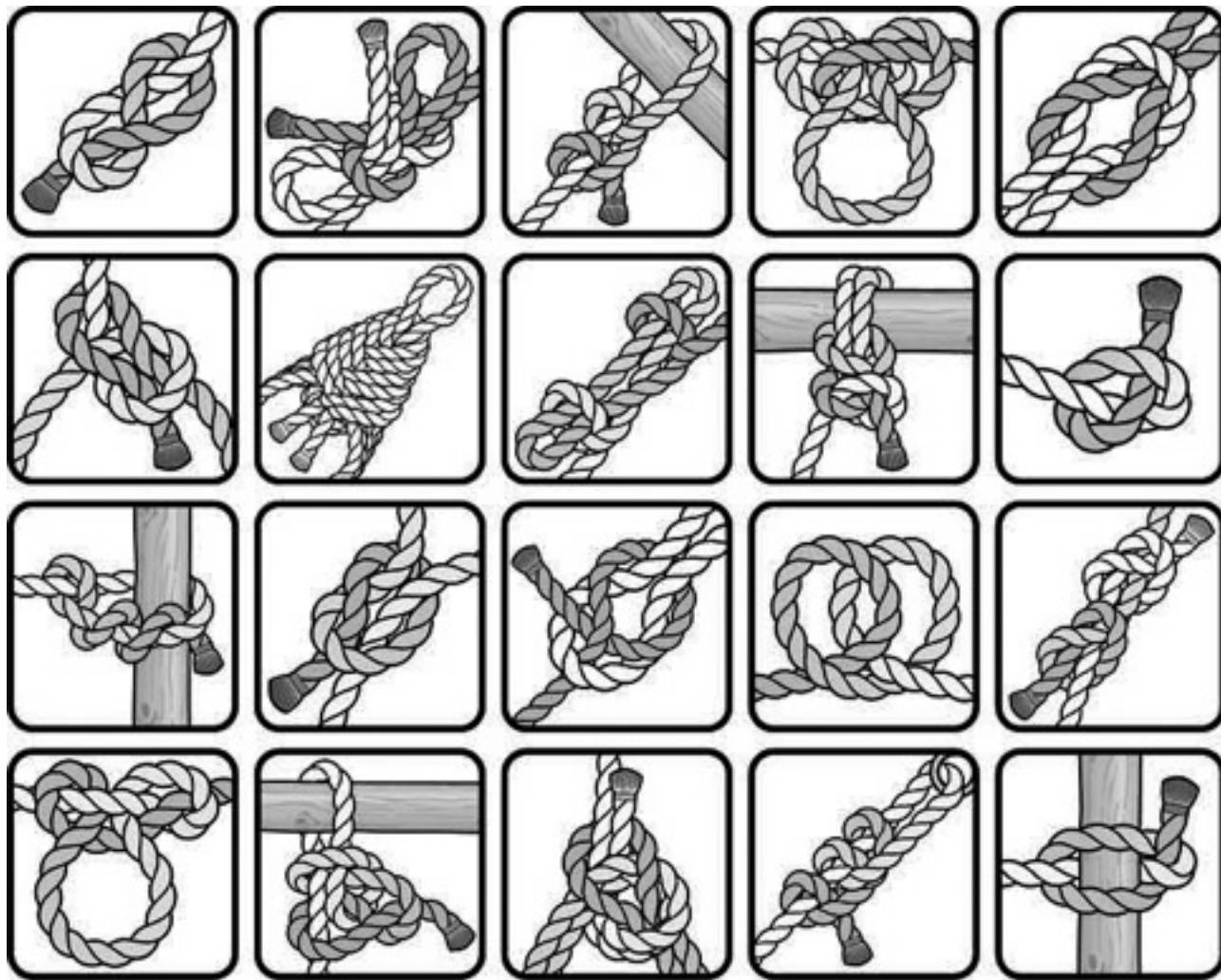
講習会開催

講師：日本キャンプ協会所属

次 田 吉 明 氏 他

ロープワーク

いざという時のために身につけておきましょう



ロープワークはいざという時に身につけておくと、非常に助かることがあります。災害時のみならず日常生活において、車に荷物をくくる、ダンボールをまとめてくくるなど、役に立つロープを使った結び方はたくさんあります。（別紙保存版Vol.14 Vol.15参照）最初は大変ですが、日頃の生活に取り入れて、繰り返し練習する事で自然に身につけていきます。

自主防災の訓練も同じ事で、日頃より備えておくことが大切です。いざと言うときに自然に行動が出来るようにしておきましょう。

今年もコロナ禍の中ではありますが、毎年10月に自主防災訓練を開催することは皆様の備えと意識向上のために大事な事だと思っております。

ご理解を賜り、皆様方のご協力とご参加をお願い申し上げます。

吹張町内会長 奥山忠平